

<第9節終了時点順位表>

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	駒澤大学	7	0	2	25	10	+15	23
2	筑波大学	6	2	1	21	11	+10	19
3	国士館大学	5	3	1	14	11	+3	16
4	東京学芸大学	4	2	3	11	8	+3	15
5	亜細亜大学	3	5	1	8	18	-10	10
6	日本大学	1	5	3	5	10	-5	6
7	中央大学	1	5	3	6	12	-6	6
8	順天堂大学	2	7	0	11	21	-10	6

★得点ランキング★

8 ゴール	鈴木孝明(筑波大)
7 ゴール	赤嶺真吾(駒大)
5 ゴール	原 一樹(駒大)
	岩田耕併(亜大)
4 ゴール	巻 佑樹(駒大)
	山崎雅人(国士大)
	ほか 1 名

★アシストランキング★

5 アシスト	養父雅仁(国士大)
4 アシスト	藤本淳吾(筑波大)
	兵働昭弘(筑波大)
	松浦 淳(東学大)
3 アシスト	中田洋介(駒大)
	中後雅喜(駒大)
	ほか 1 名

MAN OF THE MATCH

赤嶺 真吾(2 年)

体をはった粘りのあるプレーでオウンゴールを誘い出し、貴重な先制点を演出。後半には順足を引き離す3点目を奪い、この試合2得点にからむ活躍を見た。得点ランキングも2位をキープ。



リーグ第1節以来のスタメン出場を果たした中嶋。積極的に攻めあがり、リーグ初得点も記録した

9月21日 12:00 西が丘サッカー場

駒大 6(2-0) 0 順大
(1位・23) (8位・6)

得点者(アシスト)

- 【駒】31分:オウンゴール
- 【駒】35分:中嶋祐太1(筑城和人1)
- 【駒】65分:赤嶺真吾7(巻佑樹3)
- 【駒】75分:鈴木祐輔1(橋本早十1)
- 【駒】78分:原 一樹5
- 【駒】84分:巻佑樹4(根本真吾1)

KOMAZAWA	JUNTENDO
GK④牧野利昭(2)	GK⑩遠間弘紀(1)
DF④小林 亮(3)	DF③鈴木洵也(4)
DF⑤鈴木祐輔(3)	DF⑤藤田義明 (3)
DF⑥大澤陽介(3)	DF⑬小宮山尊信(1)
DF⑦筑城和人(1)	(72分⑩茅島史彦(4))
MF⑥中後雅喜(3)	DF②成島裕明(3)
MF⑩橋本早十(4)	MF⑦伊東裕聖(3)
(80分⑩根本真吾(2))	MF⑧矢野根崇(4)
MF⑧中田洋介(4)	(45分⑫江田照良(3))
MF 中嶋祐太(3)	MF⑨堀 健人(3)
(85分⑩井邑太一(3))	MF⑩石川健太(4)
FW③巻 佑樹(1)	FW⑦中村英之(1)
FW⑨赤嶺真吾(2)	FW⑩多田源一郎(1)
(68分⑩原 一樹(1))	S U B
S U B	GK⑫佐々木真裕(1)
GK③三栗寛士(1)	DF④千坂敦雄(4)
DF⑥石井晃一(2)	DF⑩沖山友晴(4)
DF⑥廣井友信(1)	DF③藤本 敏(2)
MF⑩関 光博(3)	MF⑬佐藤拓馬(4)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	吉村雅文

警告(C)/退場(S)

- 【駒】44分:中後雅喜 (C)
- 【順】24分:堀健人 (C)、50分:小宮山尊信 (C)、89分:多田源一郎 (C)

[シュート]20:3[枠内シュート]7:1[決定機]6:1[CK]10:15
[CK]8:7[PK]0:0[直接FK]15:18[間接FK]2:0[OS]2:0
[支配率]2%:2%(主審)東城権 [観衆]約350人

※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機、支配率は本誌記者による記録

CLOSE UP

頼れる主将・中田

「日大戦はみんな元気無かったから、今日は声出してしっかりやっていこうと思ってた」。中田は変わった。昨年までは声を出してチームを鼓舞するタイプではなかった。しかし主将になった今年は率先して声を出している。この試合でも終盤、皆が疲れてきているなか、中田は大きな声を出し、見事なキャプテンシーを見せてくれた。これからさらに激しさを増すであろうリーグの戦いで中田のこの姿勢はますます頼れる主将・中田が復帰重要になってくるだろう。



怪我の治りは完全ではないものの、頼れる主将・中田が復帰



DF陣は鈴木を中心に堅い守りで無失点に抑えた。攻撃でも鈴木は得意の空中戦でリーグ初得点と貢献

基本フォーメーション



※次節、中後出場停止
この試合で警告を受けた中後は、累積警告3回のため次節(中大戦)は出場停止。

それが得点につながったと思う(鈴木)。全員で守り、全員で攻めるという駒大サッカーが見事型にはまった形となった。試合後の選手たちは前節とは違い、充実した顔を見せていた。「先週から一生懸命やろうってことで、それが今日立ち上がりから出来てよかった」(中後)。「初戦の動きが悪かった分、何をやらなくちゃいけないのかを一人一人が感じとって、それを今日徹底できた」(鈴木)。選手たちは初戦で見つけた課題を認識し、その反省点を十分に試合に反映させることが出来た。しかし、これからはこの高い意識を持続させることが重要になる。「気持ちを持ちつづけられたいサッカーができる」。中田の言葉どおり、目の前の試合を一戦一戦大切に戦ってほしい。